

ガバナーメッセージ

1月は『職業奉仕月間』

国際ロータリー第2590地区ガバナー **小倉 正**



第2590地区のロータリアンの皆様、新年あけましておめでとうございます。

本年が皆様にとりまして充実した輝かしい一年となりますことを祈念致します。

2021-22年度がスタートして半年が経過いたしました。新型コロナウイルス感染拡大による神奈川県緊急事態宣言延長が続き8月・9月と2ヶ月間ガバナー公式訪問が、訪問クラブの休会等でできなくなり、やむを得ず、代替方式による公式訪問となつてしまい、訪問できなかったクラブの皆様には多大なご迷惑をお掛けしてしまいました。10月からは宣言も解除され、残りのクラブに対しては通常の公式訪問を行うことができ、11月中旬に全てを終了し、11月26・27日には地区大会を開催することができました。

地区大会の開催については、緊急事態宣言下の8月中旬までには開催日時、開催方式等の最終決定を行わねばならず、2年連続大会延期等は絶対にできないとの強い思いで予定通りの日程、対面方式での開催を決断いたしました。幸いな事に10月以降感染者の急激な減少により、通常の年度に近い形で地区大会を開催する事ができました。参加された地区ロータリアンの皆様に改めて感謝申し上げます。

12月に入りまして、5日から8日までの期間、ロータリーの本質を見据え、組織としての未来像を描き、ロータリーが持続可能な良い変化を生むために今後どう行動していくべきか考える**第50回ロータリー研究会**が東京で開催され、ガバナーとして参加してまいりました。当初は、シェカール・メータRI会長夫妻が来日し、盛大な研究会となる予定でしたが、新型コロナウイルスの変異株(オミクロン株)により来日ができず、オンラインで参加され、最終日には、私を含め5人のガバ

ナーが代表してRI会長に質問をする機会を与えられ、ロータリアンとローターアクターの権利と義務・先進国の会員減少の原因・未来形成委員会の提言(地区を無くし、地区カOUNシルを置き、その下にセクショナルリーダーを置くというもので、セクショナルリーダーにはローターアクターも立候補できる)について等を質問いたしました。RI会長は我々の質問に対して真摯にお答えになりましたが、日本のロータリーとRIの間には、認識の違いが大きい様に感じました。

さて、今月のロータリー特別月間は「**職業奉仕月間**」です。ロータリー創始者のポール・ハリスは「社会に役立つ人間になる方法はいろいろありますが、最も身近でしばしば最も有効な方法は、間違いなく自分の職業の中にあります」と述べています。「職業奉仕」とは、職業の倫理基準に則って職業を通じて他人を助け、他人や社会に役立つことだと思えます。そこでロータリーの目的は、意義ある事業の基礎としての奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある。とされています。(詳しくは、吉田直前ガバナーの「職業奉仕月間にあたり」(P3)をお読みください)

2022年に入り、2021-22年度の後半に入りました。今月にはアメリカにて国際協議会が開催され、2022-23年度のRI会長に就任される女性初の会長エレクトの会長テーマが発表され、第2590地区も志村雄治ガバナー年度の準備が始まります。未だ新型コロナウイルスの終息が見通せない現況下、6月末までの後半の半年についても気をゆるめることなく、任務を全うする所存ですので、会員の皆様のご協力をよろしく願います。